

本願  
寺派

# 龍谷頭真会会報

第 2 号 (昭和57年6月23日)

京都市下京区堀川通花屋町下ル  
浄土真宗本願寺派(情報部)

龍谷頭真会事務局

開会式におけるご門主お言葉

## 我々の役割は何か



今年度の龍谷頭真会の  
総会にあたりまして会員  
の皆様には、ようこそ御  
参集下さいました。日頃  
から大変難しい政治・行  
政といった面に實際に関

わりながらも、しかも一方浄土真宗の僧侶と  
して政治と宗教という難しい関係を、一人で  
努力をしながら歩んでおられますことは、誠  
に敬意を表するところでございます。それぞ  
れ一人ひとり考えが違っておるかもしれませ  
んが、ここに又同じお念仏を仰ぐものとし  
て、自づから政治の場面に表われるものが、

共通してあるものだとも考えることござい  
ます。尚一層の御努力が、ある意味で宗門が  
社会に対して貢献をしていくひとつの表われ  
と考えてよいことかと思うことございま  
す。

今回一つ私が最近なるほど思いましたこ  
とを御披露して、御参考までにと思うのであ  
ります。半分受売りでございまして、そこに  
いらっしやった方の御諒解を得ておりませ  
んけれども、日本が平和国家を目指して、軍備  
に頼らないで、極力世界の平和を実現したい  
という憲法を掲げて歩んできました。しかし、日  
本の政府が海外に、派遣されている外交官等  
の人数を比べますと、日本より貧しい、経済  
力の劣っておるヨーロッパの国々にくらべて  
も、数は決して多くない。もし軍備にお金を  
かけないのであれば、それに匹敵する、ある  
いはそれ以上のお金あるいは人材を、平和を  
実現するための手段につきこまなければ、実



現するはずがないではないかと、竜大のさる先生がおっしゃっております。

私共ともすれば、平和平和と口で叫んでおれば、それで我々の役割を果してしまっているかのように錯覚に陥ってしまい、これほど難しい問題を実現するには、たとえ軍備に依らないとしても、それ以上の費用をかけなければならぬと思えます。

今日我国は、ものが豊かになったけれども心が貧しくなったという言い方を、私共は通常いたします。たしかにそういう考え方は、一応それで通るわけでありますが、よく考えてみますと、ものが豊かになった中には、たしかに宗教的あるいは道徳的に秀れた日本人の面が反映しておりますけれども、一面弱い人を制し、あるいは海外の弱い国を制限しているという面も全くないとは言えない。

したがって、心の豊かさを取戻すためにはある程度、経済的な豊かさをあきらめなければならぬという面も、全部ではございませんが、あるような気がする訳でありまして、心が豊かな、戦争のない平和な世の中を目指してということであれば、我々はそれに見合った限りで、犠牲を払わなければならないという、そういう時代が来ているのではないかと思えます。

政治と申しますと、なかなか選挙民に対し

てきびしいことは、おっしゃりにくい御立場であると思えますけれども、ある面で、そういうきびしさが加わるときに、宗教界もそうした面が、自づから展開し、充分でないというようなことを反省する今日でございます。

直接お役に立たないかもしれませんが、こういう考え方もあり得るということを、参考にもしてもらえばよいかと思うのでございます。

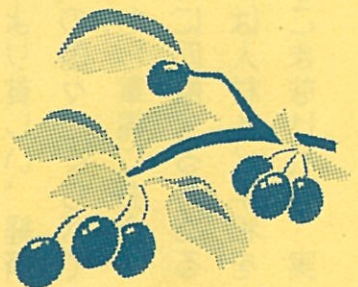
### 事務局より

◇昭和五十七年度総会は五月二十六日、宗務所で開催され二十九人が出席。会員へは報告書を送付しました。

◇会報創刊については昨年十一月の世話人会で「結成十周年を前に、日常的に輪を広げるための手だてにしよう」と創刊を決め、五月二十六日付で第二号を発行しました。  
◇本号は今総会における「門主のお言葉と代表世話人の挨拶をまとめて第二号として発行したものです。

◇今後、会員の意見、参考資料など多彩な内容にして年に三、四回発行することが世話人会で決定していますので、どしどしご意見をお寄せ下さい。

(写真は高木敦賀市長の記念講演)





# 仲間の苦悩を共有して

## ——三輪善海代表世話人挨拶——



皆様方、六月の定例議会を控え忙しい中を本会々員としての任務を果すべく、

又会員のなすべき指針を模索しつつ連帯をとろうと努力されていることに対して敬意を表すると共に、深く感謝をいたすものであります。

龍谷顕真会も来年で十年目を迎えますが、十年一昔の例えのように、これも私たちにとって、一つの節目になろうかと思えます。龍谷顕真会を結成し皆様と共に同じ立場にある宗教家として、そして念仏者として、どう現実に立ち向かっていくかにつき、他の人たちに

ない私たちだけの悩みがあったと思えます。

この悩みをどのように乗り越えていくかについて各々の方々と話し合い、探り合ってゆき、我々の指針を含めて方向づけをし、共に一致した方向で歩んでいくべきではないか、又そうありたいものだという希望のもとに本会を結成したものであると思っております。

私は宗教家であるために、という非常に困難な現実の社会において、駆け引きとせり合いの議会において自分の為そうとすること、意思を通していこうとすることには、各々の方々がどれだけの御苦労をなさっておるかということで、いつも深く考えさせられる

訳ですが、この十年間を振り返ってみて、この集いを結成していただきよかったと思っております。

私自身の経験から皆様方にお話させていたくならば、私は相生市であります。市の職員で三才以上で、本願寺派寺院に所属している職員は、全員壮年会に入っており、部・課長はそれぞれの寺の会長あるいは副会長を務めております。というのも私が議会に行き、私はあくまでも僧侶であり住職であるということの基本にして、活動を続けているということが、一つの要因でないかと思ひ喜んでもおるわけであります。それ故に役所に行きます時も三分の二以上は、布袍・輪袈裟という僧職の姿で行っております。市議会等の議席に座る時も、その姿で座ることも度々ございます。その時には議員諸氏の中には「きょうは議長さん！お説教ですか」と、開会を宣



言する前などにそういうことを言う方がおります。そういうことから議員全体の気持ちにおいても、そう言われることがうれしいような感じすらする事がございます。

また、皆さんの所属されている各市町村では、我が宗門としても問題として取り上げております靖国神社問題は、昨年度におきましては、各市町村の在郷軍人会・遺族会等の方々が、意見書決議請願を提出されたのに対して、共産党系統あるいは日教組系統からは靖国神社反対の請願が提出されたことがあるかと思えます。

私の所属する市からも両方の請願が同時に出たことがあります。そうして靖国法案賛成の法案は、私の所属する自民党の議員の紹介によって自民党から出ております。その時に私自身が自民党に所属している限り反対すべきか賛成すべきかという問題に必ず突き当らなければならぬ。それと同時に靖国法案に対する反対の反対の

意味は、共産党あるいは日教組の唱えている意味と、私たち宗門の申しております反対の反対の意味とは違うということは、御存知のことと思えます。

私は僧侶であり住職であり、宗門の方針はあくまでも他の反対の諸団体の方々とは違う意味をもった反対者であるということを経験に、私の市ではそれを法務委員会に、私の市ではそれを法務委員会で企画するにしても、又総務委員会においても、どちらでも賛成できずましてや共産党の反対にも賛成できない。そして自民党の唱える賛成意見にも同意できないことから、絶対通せないということ、廃案にしたことがあります。そうすることができたのも、私たちの仲間が同じ事で苦しみ悩んでいるのであるから、そこで一踏んばりしなければと思ったからであります。

政治は現実であり力である。そこに求めるメリットは何か。この頭真会があるがためにこういうメリットを私はこの十年間で得たという確信をもっております。そういう事柄で私たちはこの会から得られるメリットを追いつけ、私たちが求めうる一つの方向の支柱を模索しつつ、その方向づけによって共に進んでいきますようにと、強く願っておるものであります。

そういうことから頭真会結成の主旨に添えるようお互いが、努力していただきたいと思います。

それに加え頭真会十年目は、統一地方選挙の年にあたっており、会員の皆様共々、来年の四月の選挙には、頑張っていたいただき、再びこの場を集っていただき、我々の方向・指針の模索にお互いの経験・意見等を語り合い、深めつつ歩みながら、この頭真会の発展を、心より念ずるものであります。

◇ご門主お言葉並びに代表世話人挨拶は、情報部においてテープを起こしたものです。